

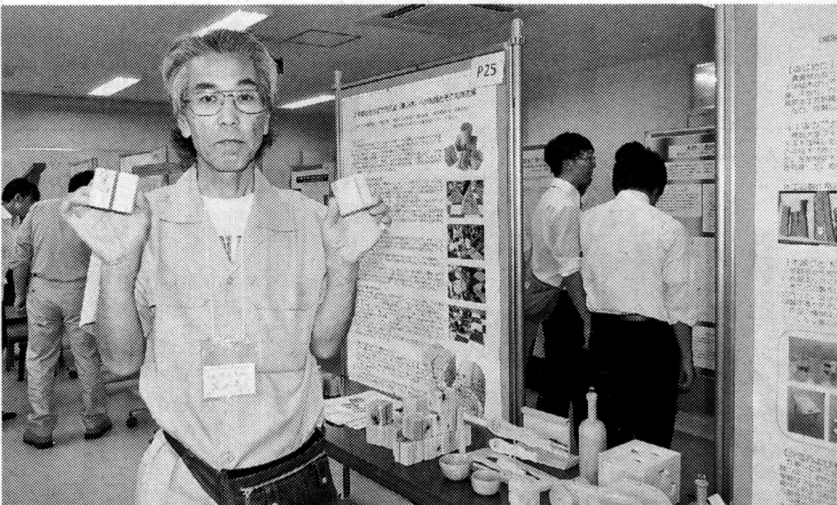
経済
さんいん

産業ナビ

農林水産

次回は10月14日掲載予定です。

間伐された杉を活用した積み木。玩具として利用することで大量活用も視野に入る



鳥取県産の杉間伐材加工 幼児玩具積み木に

鳥取県産の間伐材の杉丸太を加工して、幼児用玩具の積み木に活用したところ幼児の知育にもつながり、間伐材を大量に有効利用することができるとの研究成果が、鳥取大学(鳥取市湖山町南4丁目)で25日にあった日本木材学会中国・四国支部研究発表会で発表された。間伐材の有効利用はさまざまに取り組まれているが、用材などでは使用量に限界があることから、大量に活用できる新たな手法として注目されそうだ。

建築物以外に有効利用 香りや感触楽しみ遊ぶ

研究は鳥大の作野友康名誉教授や鳥取木工芸振興会の藪田道男氏、鳥取環境大学の遠藤由美子准教授、県地球温暖化防止活動推進センターの石黒仁士氏らが取り組んだ。

杉間伐材は、八頭中央森林組合(八頭町郡家に集荷された丸太を利用することにした)が、量を使うことを考えてほしいとの要望を受け思案し、積み木に加工することにした。取り組みは今年で4年目になり、これまでに作製した積み木は7千個。間伐した杉丸太の芯持ち材を6寸角の角材と直径6寸の円柱材に加工。幼児が利用するため角は面取りし、割れを防ぐために背割りを入れた。杉の

特徴でもある軽くて軟らかい点を生かすために無塗装とし、子どもに参加するイベント会場や保育園などに持ち込んで自由に遊んでもらうことを繰り返した。

積み木の杉材は自然乾燥に半年は必要で、3千個を作るのには約1年を要する。藪田氏は「あと3千個を作り、とりあえず1万個は確保したい」と話す。次のステップに進むにはコスト計算なども必要になるが、積み木への活用は建築物以外でも有効利用することができ

る出口の一つになる。

きな反響があり驚いた。木のおいを知る遊びをしてこなかったのだろう」と振り返る。子どもたちは、ちゅうちよなく積み木で遊び、自由な発想で積み上げたり、友達と共同作業したりとさまざまに行動。円柱型を使って寝転んだりもした。最も遊びやすい量を観察したところ、1人100個程度だったという。